

## ● 診療科の特色

当科は 2024 年度も常勤医 2 名の体制での診療を継続した。人手不足のため、手術中などにおいて急患受け入れ体制に多少の影響があることは否めないものの、可能な範囲でお断りしない診療を続けている。

診療内容としては、これまでと同様に脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術、くも膜下出血に対する開頭脳動脈瘤クリッピング術、脳出血に対する開頭血腫除去術、頭部外傷に対する緊急手術などを行っている。手術においては、術中に脳血管を造影したり、腫瘍に蛍光を発生させて腫瘍と脳との境界を明瞭にすることができる新しい顕微鏡を 2020 年から使用している。当院の顕微鏡は外視鏡と呼ばれ、顕微鏡の鏡筒を覗きながら行う従来の脳外科手術とは全く異なり、ハイビジョンの4倍の解像度を持つ 50 インチの高画質 3D モニターを見ながら手術を行うものである。同型の機種は中四国においては当院で初めて導入され、中四国の他病院が当院に追従する形になっている。また、2023 年から、術中に神経機能を監視できる装置を導入し、これまで以上に安全・確実な手術が行えるようになっている。

いわゆる急性期疾患に対する診療だけでなく、頸動脈狭窄症に対する頸動脈血栓内膜摘出術や、『手術で治せる認知症』と言われる正常圧水頭症に対するシャント手術、三叉神経痛や顔面けいれんを治す微小血管減圧術なども、積極的に行っている。

また、当院は、小児医療に関して地域の中核的な存在であり、当科でも小児脳神経外科診療を小児科と連携して積極的に行っている。小児の症例については、近隣の岡山市北区のみならず東区や中区、あるいは郡部など、離れた地域からも数多く来院されており、小児医療における当院の重要性を改めて認識している。

引き続き、『信頼できる脳神経外科』であり続けられるよう、地域医療における役割を果たしていく所存である。

## ● 入院診療実績

## 1. 主要手術 年間手術件数 84 件

	手術名	件数
1	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	36
2	頭蓋内腫瘍摘出術(経鼻下垂体手術含む)	11
3	頭蓋内血腫除去術(脳内)(定位手術含む)	7
4	脳動脈瘤頸部クリッピング術	5
5	定位脳腫瘍生検術(内視鏡生検含む)	5
6	内頸動脈血栓内膜摘出術	4
7	頭蓋内血腫除去術(硬膜下)	3
8	水頭症手術	2
9	その他	11
	計	84

## ● 研究業績

### 論文

- 1) Okumura T, Usui N, Kondo A, Ogawa H, Hashiguchi M, Kuromi Y, Yamaguchi T, Otani H, Imai K, Ishizaki T, Tanei T, Maesawa S, Saito R  
Favorable seizure and developmental outcomes without preoperative intracranial electroencephalography in pediatric patients following epilepsy surgery: A single epilepsy center retrospective study  
Epilepsia, 2024, DEC 27
- 2) 木内博之、齊藤延人(監修)、三國信啓(編集)、臼井直敬(筆頭著者)  
側頭葉前部切除術  
プライム脳神経外科 6 機能外科的疾患, 61-68, 2024年 5月 20日
- 3) 高橋幸利(編集)  
発作時脳波焦点とMRI所見  
新版 どうよむ? こう読む! てんかんの発作間欠期・発作時脳波, 234-242, 2024年 9月 9日

### 学会発表

- 1) 外傷性慢性硬膜下血腫を合併し穿孔洗浄術後に自然退縮したくも膜嚢胞の1例  
吉田 秀行  
第52回日本小児神経外科学会 2024年 6月 8日
- 2) 限局性皮質異形成に対する Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging (NODDI) を用いた術前画像解析  
近藤 聡彦  
第78回国立病院総合医学会 2024年 10月 18日